

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり新中野		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番25号		
自己評価作成日	平成25年3月8日	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じることができる行事を盛り込み入居者様が元気で笑顔のある生活を送ることができるよう日々努力をしている。また2月より常勤で看護師配置となり、日常的な健康管理のほか医療的なニーズが必要となった場合の対応ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム みのり新中野」は、苫小牧駅から車で10分程の静かな住宅地に位置している。隣接している同一法人経営の小規模多機能型居宅介護事業所と協力関係を築きながら、運営推進会議や避難訓練を合同で実施したり、数々のボランティアを受け入れ、地域に根差した事業所を目指して日々取り組んでいる。管理者は、日頃から職員の意見に耳を傾けて働きやすい環境作りに配慮して、定着した職員の下で、安定したケアが継続して提供できるように向上心を持って取り組んでいる。理念は、定期的に唱和したり、会議の議事録メールに添付するなどの工夫で職員の理解度も深められている。運営推進会議は、参加者と地域包括支援センター職員や市役所職員との質疑応答が活発に行われ、地域の情報交換の場として有意義に活用されている。家族の意見や要望は、来訪時や電話で聞き取るほか、メールなども活用して意向が把握できるように取り組んでいる。また、事業所の行事は、利用者の意見を聞きながら、楽しい時間が過ごせるように工夫している。管理者と職員は、各利用者に寄り添いながら、理念に掲げるような笑顔のある生活ができるように日々温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(はすかっぱアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかつぶ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様がいつも元気に笑顔のある生活を送ることができるよう、どのように支援していくかを会議等で話し合いサービスの向上に努めている。	開設時に、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、事務所などに掲示している。管理者は、新任研修で詳細に内容を説明したり、会議の議事録メールなどに添付して、日頃から各職員に理念の意識づけを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している事業所と共に地域ボランティアの受け入れ交流を図っている。また、事業所行事の際等町内会からの協力を得ている。	傾聴やカラオケ、メイクボランティアなどが来訪して、利用者と交流している。地域のお祭りや事業所の夏祭りでも、少しずつ交流が深められている。今後は、小学校や幼稚園など、子供との交流を進めて行く意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し市、介護福祉課職員、町内会、民生委員、地域包括支援センター、ご家族様に参加して頂いている。会議ではホームの活動状況の報告の他、参加者からの意見、助言を得てサービス向上に活かしている。	併設している同一法人事業所と合同で開催し、会議案内と議事録を全家族に送付している。防災を議題に取り上げ、市の危機管理室専門員も参加している。質疑応答も活発に行われ、会議が地域の情報交換の場になっている。今後は、年間のテーマを設定して行く意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課の定期的な訪問の他、介護福祉課へは運営に関する疑問点など相談している。2ヶ月に1度の運営推進会議にも出席して頂き意見をサービス向上に繋げていけるよう努めている。	管理者は、書類の提出などで市役所を訪問している。医療連携体制加算制度や区分変更、看護師の勤務体制など、疑問があれば電話などで随時相談して、アドバイスを運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止委員会があり、個々の状況に応じ危険のないよう見守りを強化、拘束のないケアに努めている。	法人内勉強会後に事業所で報告研修を行い、内容を全職員で共有している。管理者は、利用者の行動を抑制する言葉がけがあれば、その都度注意をしている。「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含む法人マニュアルを作成しているが、理解が不十分な職員もいるため、今後勉強会を予定している。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての勉強会を実施する事で、全職員が禁止項目について更に理解を深めるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止委員会があり、会議の中でも意見を出し合い職員間で情報を共有し虐待が見逃されることのないよう取り組んでいる。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、必要性のある利用者様へアドバイスができるよう今後努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ十分に説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の意見を反映させていけるように日々の会話や表情から汲み取れるよう努めている。	家族の来訪時やメールで連絡を取り合う機会に、意見や要望を聞き取るように努めている。年数回、日頃の様子を個別の手紙で伝えている。相談内容に応じて、家族相談表や連絡ノートに個別に記録して情報を共有し、統一した対応を心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用のほか、月に一度の会議で意見交換を行う機会を設けている。	管理者は、日頃から職員に相談したり、各職員の意見に耳を傾けながらケアや運営に取り組んでいる。年2回、個別面談も行っている。職員は、委員会や係などを分担して担当し、積極的に運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での専門研修スタッフによる充実した研修制度を設けている。また外部での研修通知を回覧し自主希望の促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連する事業所等と定期的に勉強会(学びの会)を開き、他職員と幅広く情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかつぷ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様にホームを見学して頂き、不安を取り除き安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていること、要望等を把握し不安解消、要望に近づけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からご本人様、ご家族様との面談を行い、ニーズを把握できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし共に支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、運営推進議の呼びかけや面会時、電話、通信でホームの様子をお伝えしている。ご家族様と日頃よりコミュニケーションを図り共に支え合う関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活習慣やコミュニケーション等でも人や場所との関係を把握し馴染みの関係が途切れないよう友人の訪問、家族との外出等、関係継続の支援に努めている。	自宅近くの友人などが来訪した時は、ゆっくり過ごしてもらい、帰り際には再訪問の声かけをして馴染みの関係が継続できるように支援している。馴染みの場所への訪問は、殆ど家族が支援しているが、数人でコーヒーなどを飲み職員と出かける機会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理、掃除等の共同作業、レクリエーションを通じ利用者様同士の関係を理解し、不快がないよう楽しめる環境づくりを工夫している。時には職員が間に入り関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぷ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を送る等これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや表情、行動から思いを汲み取るよう努めている。ご家族様、職員等の情報も大切にしている。	事業所の行事や誕生会の開催日などについて利用者の意見を聞き、運営に活かしている。利用開始時に生活歴などを把握して記録している。現在、情報の蓄積に向けて記録方法を検討しながら取り組んでいる。	利用開始後に得られた情報の記録方法が確立され、情報の蓄積が定期的に行われるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを密に行い、ご本人様、ご家族様からのお話でこれまでの暮らしの把握ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等により一日の生活のリズムや心身の状態を観察し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画見直しの際には意見が反映できるよう、職員間でも意見交換を行い現状に即した介護計画作成に努めている。	事前に家族や本人の意向を聞き取り、利用者の担当職員が行ったモニタリングを基に各ユニットでカンファレンスをして、3か月毎に更新計画を作成している。介護計画は、家族と利用者にもわかりやすく説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別のケース記録に食事、水分、排泄等の記載、介護計画に添ったケアができているかをチェックし介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズにできるだけ対応できるようその都度話し合い支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安全、安心した暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している。	家族が受診に同行する場合は、必要な方には食事や水分量、血圧などを記録した経過表を持参してもらっている。受診結果は医療用ノートに記録したり、特変時は「受診記録」に記入している。今後は「健康管理表」に、個別に医療情報を記録して行く意向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、必要時相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行き、ご本人様の状況の確認を行っている。また、病院側と情報交換、相談を行い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。	今年度「重度化した場合における(看取り)指針」を作成して全家族に説明し、同意書を得ている。健康状態の変化に応じて、主治医の説明の下に家族と治療方針を検討して行く方針である。今後、看護師を中心に緊急時の対応などの学びを深めて行く意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。また会議にて看護師による急変時の対応についての研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により定期的日中、夜間想定防災訓練を行っている。訓練時には町内会の参加、協力も呼びかけている。	昼夜の火災を想定した避難訓練を年2回実施し、夜間想定訓練は、消防署の指導の下に行われている。今年度は地域住民の参加が得られなかったため、今後は避難訓練への参加と役割分担の確認をする意向である。災害備蓄品は、現在整備を進めている。	地域との協力体制を整備し、避難訓練に地域住民の参加が得られるように期待したい。また、火災以外の災害時の対応について、職員間で対応を再確認する機会が持たれるように期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさ、声掛けのタイミング、周囲の状況等に気を付け、個々に合わせた言葉掛け、対応に努めている。	本社研修で得た情報を基に、言葉がけについて注意を促している。上からの目線や馴れ馴れしい態度で、利用者に不愉快な思いをさせないように丁寧に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図りながらご本人様の思いを引き出せるよう努めている。自己決定を尊重し納得した生活ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを把握し希望に添って一日一日を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、定期的に理美容を利用する等の支援をしている。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかつぶ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、後片付けをそれぞれできることを職員と共に行い食事全般が楽しみと思って頂けるよう支援している。	ユニット毎の別メニューで、栄養バランスや嗜好を考慮して食事を提供している。「芋もち」や「おはぎ」のおやつ作りに利用者も参加し、時には中庭でバーベキューを一緒に楽しんでいる。誕生日や行事には、好みの弁当や出前料理も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し摂取量の把握を行っている。個々の状態に合わせ刻み等の形態、味付けを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ひとりひとりに声掛け、介助(必要な方)を行い、口腔内の清潔保持に努めている。毎日歯ブラシ、義歯ケース、コップの消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を介護記録を通し職員間で共有、把握し、必要な場合は声掛けを行いトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	誘導の必要な方のみ排泄状態をチェックし、さりげない声かけでトイレに誘導している。仕草などを観察し、早めの対応から失敗が少なくなっている。自力で排泄が可能な場合は行動を見守り、後で確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	声掛けにて排便の確認を行い記録している。体操や歩行運動を取り入れ便秘予防に取り組んでいる。改善が見られない際は医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望により曜日を決めているが、入浴されていない期間や希望があれば要望に添い支援している。	1階に天然温泉湯、2階にはユニットバス浴槽を用意し、浴室の窓から採光を取り入れたり、壁に明るい色彩を施して心地よい環境を整えている。利用者の希望日に沿って週2回をめぐり、午後から入浴を行っている。入浴を嫌がる時も、職員間で情報を交換しながら、言葉がけを工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じ昼食後に休んで頂いたり、疲れ具合によっては促しを行う等休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルし、いつでも確認できるよう整備している。薬に関するマニュアル、チェック表を作成し服薬の際には必ず職員2名が声出し確認を行い誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意欲を尊重し出来ることを楽しみながら行ってもらえるよう支援している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかつぶ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って散歩や買い物等に出掛けられるよう支援している。	近くの公園への散歩や買い物に出かけたり、中庭でおやつを楽しむなど、外気に触れる機会を多くしている。外食ツアー、道の駅ツアー、秋の味覚祭なども楽しんでいる。植物園での散策や大型ショッピングセンターで買い物を楽しんでいる。冬季にも、外出が出来るような機会を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には職員が付き添い、会計を自身で行って頂く等の支援を行っている。一部の方はご本人様、ご家族様と話し合いをし、自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に添い対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や職員の作品飾る等明るい雰囲気配慮している。季節感を取り入れる等の工夫もしている。	外玄関の広い空間は、竹の素材と白い砂利の装飾で和の雰囲気を作りあげている。居間の照明も和風にして、温もりのあるお洒落な共用空間を提供している。滑らない特殊な床材を使用し、安全にも配慮している。車椅子で利用できる3か所のトイレと洗面所は、居室からの導線に沿って居間から奥まった場所に配置し、プライバシーに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫し新聞を読んだり、趣味を楽しんだりとくつろげる環境作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や仏壇を含め、馴染みのものや使い慣れたものを持ってきて頂き、ご本人様が安心して居心地よく過ごすことができるよう配慮している。	居室には大型のクローゼットが取りつけてあり、室内はすっきりしている。ベッド、鏡台、タンス、使い慣れた椅子など、馴染みの家具類が持ち込まれている。観葉植物、仏壇、小物類などや家族の写真などを飾り、その人らしい居室で心地よい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所に札を貼り危険がないよう配慮し安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり新中野		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番25号		
自己評価作成日	平成25年3月8日	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「はすかつぷユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様がいつも元気に笑顔のある生活を送ることができるよう、どのように支援していくかを会議等で話し合いサービスの向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している事業所と共に地域ボランティアの受け入れ交流を図っている。また、事業所行事の際等町内会からの協力を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し市、介護福祉課職員、町内会、民生委員、地域包括支援センター、ご家族様に参加して頂いている。会議ではホームの活動状況の報告の他、参加者からの意見、助言を得てサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課の定期的な訪問の他、介護福祉課へは運営に関しての疑問点など相談している。2ヶ月に1度の運営推進会議にも出席して頂き意見をサービス向上に繋げていけるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止委員会があり、個々の状況に応じ危険のないよう見守りを強化、拘束のないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止委員会があり、会議の中でも意見を出し合い職員間で情報を共有し虐待が見過ごされることのないよう取り組んでいる。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、必要性のある利用者様へアドバイスができるよう今後努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ十分に説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の生活状態を報告し、ご家族様の意見も取り入れながら生活支援している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を開催しスタッフ間で意見交換を行う場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で3ヶ月、1年研修をはじめ、個々の力量を図りながら実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修や市のグループホーム連絡会の研修に参加し交流の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安を受け止め、どのようなサービスを提供すべきかを考慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や、意見、要望を聞きサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からご本人様、ご家族様との面談を行い、ニーズを把握できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に役割を担って頂くことで楽しく生活できるよう、また負担になり過ぎないように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の気持ちを考慮し、ご家族様の協力の合わせ、どのような支援が必要かを考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活習慣やコミュニケーション等でも人と場所との関係を把握し馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のトラブルもあるが、各利用者様が気持ちよく生活できるよう関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がどのように生活したいのか、ご本人の意思を確認、把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者台帳をもとに生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握のため、毎日の申し送りの中で心身状態の変化、ADLの状態の確認に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多角的にどのようなケアが必要なのかスタッフ間で話し合う機会を設けるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と申し送りを通し、変化に対応したケアができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じてその時利用者様のどのようなサービスが必要なのかを考慮し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安全、安心した暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、必要時相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行き、ご本人様の状況の確認を行っている。また、病院側と情報交換、相談を行い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により定期的日中、夜間想定防災訓練を行っている。訓練時には町内会の参加、協力も呼びかけている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを大切にし、誇りやプライバシーを侵害しないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のニーズを考慮し自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用、整容に配慮している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状況に応じ、食器拭き等の手伝い等して頂き、共に食事が楽しめるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限り栄養バランスの取れた食事提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンの把握、また排便コントロール必要時、下剤等の投薬を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に牛乳や豆乳等の提供を行ったり、主治医の指示により下剤の内服を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	用意設定はないが、午後からの入浴となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝や不眠がある場合、倦怠感が見られる際等体調に合わせ休息をとって頂けるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をもとに薬の用途の確認を行い、また誤薬のないようスタッフ間の確認を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担や外出行事等、ひとりひとりがその人の合った楽しみを見つけていけるように支援している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事によって出掛ける他は家族の同行により外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は職員側で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時、ご家族様との連絡を図り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オルゴールメロディーや演歌等の音楽を流し、落ち着く雰囲気作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれるところは少ないが居場所の工夫は行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、食器、寝具等を使用して頂き、心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けてトイレの場所や居室に名前を付けて場所の確認ができるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり新中野

作成日：平成 25年 4月 10日

市町村受理日：平成 25年 4月 11日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践 「指定基準における禁止の対象となっている具体的な行為」についての細かな知識、理解が不十分。	禁止項目についての理解。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての理解を更に深めるための勉強会を実施していく。	1年
2	23	思いや意向の把握 利用者様の新たに知り得た情報についての記録方法の確立。	センター方式シートを活用、情報を蓄積していく。	新たに知り得た情報を追記し、より細かなアセスメントができるよう情報を蓄積していく。	1年
3	35	災害対策 年2回の避難訓練は(昼夜想定)消防署の指導の下実施しているが、今年度地域住民の協力が得られなかった。	地域との協力体制の構築。	避難訓練時、地域住民の参加が得られるよう働きかけていく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。